

樹木の力

石川県巨樹の会

「石川県巨樹の会」の一員として、「樹木の力」について考えてみたいと思います。

全国巨樹・巨木林の会（東京都、1993年設立）では、毎年、『巨木を語ろう全国フォーラム』と称して全国大会を行っており、2023年度は青森県階上（はしかみ）町で第34回目の大会が、10月7日に開催されました。

今回の大会テーマは、「いにしへの巨木を未来につなぐ」階上の海と里山から光を〜でした。そこに参加して感じられた点は、「町を挙げて巨樹巨木の存在を提示する」というよりも、「普通の家の庭先に巨樹がある」とする、「いわば庭の木としての巨樹」、それが普通だという点です。

階上町内にある蛭子家のウツギ、平野家のサイカチ（写真）、柳沢家のカツラ、上野家のサワラなどがそれになります。普通の生活の中に樹木があり、それも巨樹となっている樹木が多くあるのです。階上町の土壌や広い敷地面積などは、樹木にとっては良い環境だと思えました。もともと樹木を維持する普通の家の人にとっては、清掃関係等の世話も必

要となり大変な面もあるだろうとは想像しています。



平野家のサイカチ
幹周6.4m、樹高15m
（資料：階上町HP）

それに引き換え、街中にある樹木は道路が通るからとか、宅地造成があるから等の理由で安易に伐採の憂き目にあうということもよく聞きます。東京都内の明治神宮外苑の再開発に伴い銀杏並木はどうなることでしょうか。やはり緑豊かな樹木が、生活環境等に役に立つという事を強く主張していくことが、必要かもしれません。

小生にとつては、巨樹・巨木の存在が人間の境地を超え、人間の生涯に比べ10〜50倍以上の生命を葆ち存在していることが驚異的で、敬意を表するところと思っておりますが、それは個人的感覚といえることかもし

れません。

ただ、樹木は、かなりの人たちに安心感を与え、快適な気持ちにさせる十分な要素を持っていることは確実です。本年夏に行われた金沢市のまちづくりを検討する会議に出席した折には、都市計画に町屋の存在が提示されていたのですが、そこに緑（樹木等）の存在があると人に精神的なやわらぎを与える事となるので、都市空間に緑は必須な項目だと主張しました。

こういったことが目の当たりにでき、思わぬところで樹木が役に立っている例があります。

金沢市内の本多通りに面した金沢歌劇座近くに、道路に出っ張っているモミの木（写真）があります。市道拡張工事の際に伐採されずに残された木ですが、小生は30年前に初めてそこを車で通りかかった時は、何て邪魔な木があるのだと思ったのですが、よくよく見るとこのモミの



本多通りのモミの木（金沢市）

木の近くでは、全ての車が減速して走行するようになっていきます。

つまり、このモミの木は、交通事故を防ぎ交通安全に役立っているということになります。

先に述べた階上町や金沢市等のように、戦災にあつてない、あるいは大火事にあつてない地域においては、巨樹を含めた樹木が多数見られます。それらを観光名所にするという事は十分可能であり、これらが更なるアピールにつながると思います。

石川県巨樹の会は、春秋に開催している「巨樹探訪会」も含め、これからの時代における「樹木の力」を高め、また多くの方々にそれを知ってもらうように活動をひろげていく所存です。各種団体とも提携しながら協力してまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。



2023年春季探訪会 魚津の洞杉
（富山県魚津市）

（石川県巨樹の会

常務理事 竹上 勉）